

1. はじめに

9月7日から9日にかけて土木学会全国大会が仙台の東北大学川内キャンパスで開催される。中日の8日には、国際センターを会場にして「熊本地震報告会」、基調講演「次世代に繋ぐ生産現場のイノベーション」、2つの特別講演「日本の将来と東北の可能性」「日本文明と土木」、全体討論会「地域を元気にする新しい発想と技術～若手研究者が考えられる地域と土木の未来～」があり、討論会には高知大学の原忠先生がパネリストとして出場することになっていた。どれも興味がある内容であった。しかもこの日は一般市民にも無料公開されることから、家内を伴って参加することにした。

9月6日は高松サポートホールで四国地方整備局の新技术活用評価委員会があった。翌日高松空港7時35分発のANAで羽田に行き高知空港からの家内と合流し、東京駅10時44分発の新幹線はやぶさ15号で仙台に行った。



7日の午後は仙台市内観光、8日は土木学会に参加し、9日の午前は松島を観光した。

松島と仙台は東日本大震災による災害調査で2011年6月、2012年7月と2度来ている。仙台観光は2011年、松島観光は2012年以來である。家内も青山整形外科勤務時代に社員旅行で来ている。

2. 仙台市内観光

仙台駅到着は12時16分。観光できるのは夕方までの半日と限られていた。ネットで予約してあったリッチモンドホテル仙台に寄ってスーツケースを預け、瑞鳳殿、仙台城、大崎八幡宮を観光することにした。

瑞鳳殿

ホテルからタクシーで瑞鳳殿（ずいほうでん）に行く。瑞鳳殿は仙台市都心部の南西、広瀬川の蛇行部に挟まれた経ヶ峯に作られた仙台藩祖伊達政宗を祀る霊廟。桃山様式の豪華絢爛な建築には圧倒される。横笛を吹き両足を出した天女、その上にめでたいことの起こる前兆とされる瑞鳥、下には聖徳をそなえた天子の兆しとして現れるとされる鳳凰(雄を鳳，雌を凰)の彫刻が施されている。霊廟の下には正宗の遺体が埋葬されている。

ここには、二代忠宗公の感仙殿、三代綱宗公の善応殿も建立されている。資料館には歴史文化の関係資料等が展示されている。

瑞鳳殿は戦災で全焼した。現在の霊廟は昭和54年に復元されたもの。

ボランティアのガイドが伊達政宗のことや霊廟のことを詳しく説明してくれた。観光してもガイドがいるといたないでは大違いである。



杉の大木に囲まれた参道



三代綱宗公の善応殿



仙台城と宮城県護国神社

宮城県護国神社は、青葉山の仙台城本丸跡に建立された神社。明治 37 年に建設された建物は昭和 20 年の仙台空襲で焼失。昭和 33 年に復興した。

明治維新以降の諸事変、宮城県関係あるいは縁故のある戦死・殉職者、5 万 6 千余柱の英霊を祀っている。



桃山様式の豪華絢爛な瑞鳳殿



二代忠宗公の感仙殿



宮城県護国神社

仙台城

仙台城は、青葉山に位置することから、地元では「青葉城」または「青葉城址」と呼ばれていたが、2003年に史跡「仙台城跡」として登録されたことから、現在では地元マスコミを中心に「仙台城跡」と呼ばれるようになっている。

明治初期から大正にかけて城の大半が失われ、昭和20年の仙台空襲で焼失した。現在では寅の門が残るのみとなっている。

天守台には伊達政宗の騎馬像がある。騎馬像は1935年に宮城県青年団が設置。戦時中の金属供出のため撤去されたが、戦後、同じ原型から铸造され、1964年に再建された。

宮城県出身の彫刻家小室達(こむろ とおる)の作である。

仙台の元々の地名は千代。伊達政宗が仙台城を築城する際に、中国唐代の漢詩の一節「仙臺初見五城楼」から仙臺に改めた。「仙人の住む臺=理想の場」、「仙人の住むような理想の国になるように」との熱い思いを託したと言われている。



伊達政宗の騎馬像

大崎八幡宮

大崎八幡宮は、仙台市青葉区八幡にある国宝に指定された社殿を持つ神社。杜の都・仙台の総鎮守として伊達政宗をはじめ歴代藩主はもとより、城下の人々から「厄除け・除災招福や必勝・安産」の神として篤く崇敬されてきた。



八幡宮の鳥居



この奥に本殿がある



桃山様式の絢爛豪華な本殿(国宝)



本殿の正面に参拝用のテントが設置されているため、本殿を正面から見られないのが残念。

和食十喜

土木学会に来ている次長の松本洋一君、係長の長崎悟史君と仙台駅近くの「和食十喜(たしぎ)」で、会社の将来の夢を語り合いながら食事をする。



二人は高知空港から伊丹空港を経由して今日仙台に来た。飛行機で松本君の隣の席に、元・土木学会会長で高知工科大学理事長の岡村甫先生が座られたそうである。コンクリート工学の大家である岡村先生が、席に着くなりコンクリート工学の本を読んでおられたのにとっても驚いたと話してくれた。

寸暇を惜しんで勉強される姿を間近に見て、世の中で名を成している人ほど時間を大切にするという事を知らされたようである。

松本君が第一コンサルタンツに入社して、20年が経つ。入社した1996年の7月に地盤工学会の研究発表会が北見工業大学であり、我が家の家族4名と一緒に北海道の道東エリアをレンタカーに乗って観光したことを懐かしく思い出した。

3. 松島観光

松島島巡り

仙台3日目となる9日は、松島海岸を観光して14時30分発の新幹線で仙台を待つ予定である。

目を覚ましてホテルの窓の外を眺めると、青空が広がっていた。昨夜、仙台では19時から21時までの3時間に72mmの雨が降っており、天気の変りようには驚かされる。

仙台駅8時15分発のJR仙石線で松島海岸駅に行く。遊覧船の出航まで時間があつたので五大堂を見学。

2012年にはマリンゲート塩竈から観光船に乗ったが、今回は松島海岸から乗船。10時発の「仁王丸」で松島湾を50分かけて島巡りをした。鐘島、仁王島、千貫島、雄島、双子島など260の島々が松島湾の入り口を塞ぐように並んでいる。チリ津波や東日本大震災時にはこれらの島々が防波堤の役割をして松島の町を守った。

以前、観光船に乗ったときには、かっぱえびせんにウミネコが群がってきて楽しかった思い出がある。今回は一羽のウミネコも姿を見せなかった。

松島湾では松枯れ防止のため、2014年から餌やりが禁止されている。ウミネコの糞が松の葉の表面を覆い光合成を阻害することや、地面に落ちた糞のリンが地中の鉄と化合してリン酸鉄となり、食物の成長を阻害するためである。



絶好の観光日和。松島湾が美しい。



五大堂に入る木橋



五大堂



五大堂から眺めた松島湾



観光船仁王丸



仁王丸二階グリーン室のデッキ



松島湾の入り口には 260 の島々が連なり、まるで半島のように見える。



穴が空いた鐘島



仁王島



瑞巖寺境内の洞窟群。



福浦島に渡る橋長 252m の福浦橋



瑞巖寺本堂(国宝)

瑞巖寺と円通院

下船後に瑞巖寺を見学する。平成 24 年 7 月に来た時には、本堂の修繕工事をしていた見学できなかった。今回は庫裡(くり, 台所)が立入禁止になっていた。修繕工事がずっと続けられていたのには驚いた。

伊達家の菩提寺である瑞巖寺は、桃山時代の真髓を表した荘厳な建物である。正宗が諸国から名工 130 人を集め、熊野山中から木材を取り寄せ、5年の歳月をかけて完成させたといわれている。

欄間の彫刻やふすま絵、天井の作りは見事である。

参道脇の杉林では、今も津波が浸水した土砂を削って置き換え作業をしていた。

瑞巖寺に隣接して円通院がある。伊達政宗の嫡孫(ちやくそん)伊達光宗の菩提寺である。枯山水のこの庭は何と美しいことか。



瑞巖寺の庫裡(国宝)



瑞巖寺本堂の鬼瓦



円通院への入り口



樹齢 750 年の松の木



枯山水の庭



円通院本堂



苔がきれい



円通院の洞窟

牡蠣焼きと穴子丼

2012年7月に来たときに食べた牡蠣焼きの味が忘れられず、機会があれば食べたいと思っていた。穴子丼もこの名物であることをネットで知った。13時12分の電車の時間まであまり余裕がなかったが、松島海岸駅近くの「寿し処まぐる茶家」で牡蠣焼きと穴子丼を食べた。牡蠣も穴子も期待したほどの大きさではなかったが、味には満足した。

5年前の3.11東日本大震災にはこの店のカウンターまで津波が来たそうである。レジのところには、「あれから5年」と書かれたラベルが貼られた日本酒が置かれていた。

(2016年9月10日記)